

横田高校二年生を社員として運営する仮想会社「だんだんカンパニー」。

設立初年度となった昨年度は「農業」「観光」など七つのテーマで奥出雲町の活性化策を研究しました。

今年度は、国営開発農地で



▼講義を熱心に聴く生徒たち

栽培されているブルーベリーを原料にしたジャムの加工販売を行うため、二年生四十九人を社員として起業。七月二日には、同社設立時から指導・助言を行っているADプランズの山内祥弘氏を講師に迎え、会社の概要や組織運営についての講義が行われました。

横田高校生による仮想会社「だんだんカンパニー」

ジャムの加工販売に向け本格始動

講義で山内氏は「この会社での活動を通じて、地域と企業活動について学んでほしい」と話されました。

講義の後には大呂地区の国営開発農地で、ジャムの原料となるブルーベリーの収穫作業を行いました。この収穫作業も商品の原料調達として行われたため、生徒たちは、ブルーベリーの実の大きさや熟れ具合などを見定めながら、真剣に作業を行っていました。

今後は、会社内でマーケティング部、経理部、販売部などを設置。価格や利益率も生徒たちで決定し、十月には東京の「にほんばし島根館」で商品を販売し、決算を十二月に発表します。

生徒たちは、モノを作っているという一連の流れを通して、企業活動や経済原理、地域資源の大切さを学んでいます。

「モノより思い出を作ろう」何度も訪れたくなる場所を目指して」

(株)スタジオL^{エル}

西上ありささんが講演



昨年、町内で開催され来場者約五千人を記録した「米・1ぐらんぷり」。今年度の開催にあたっての出店者説明会が七月四日、伝統産業会館で行われたのに併せて、(株)スタジオLの西上ありささんを講師に招いて、商品開発と販売戦略についての講演会が開催されました。

西上さんが所属するスタジオLは、全国各地で自治体のまちづくり、総合計画、パン

フレットやホームページのデザインなどを支援する会社です。現在、西上さんは海士町役場で集落支援や集落診断、各種団体の自立サポートを担当されています。

この日西上さんは、兵庫県姫路市の家島にある「NPO法人いえしま」で、自身が携わった特産品開発を例に講演。「商品は『モノ』だけでは売れない。商品について語れるエピソードが重要」とし、モノづくりにおける見えない付加価値の大切さについて話されました。

また「家島では、まちづくりとして商品を展開すること、販売数の増加だけでなく、地域の魅力の再発見につながった」と話し、モノづくりから得た「地域の魅力」「仲間」「絆」「相手を思いやる気持ち」という副産物の重要性にも触れました。

最後に西上さんは「モノづくりのコツ」について話し、講演をまとめました。



▲講演会の様子

「私がやりたいこと」「社会が求めていること」「私ができること」の三要素すべてを含むものが、本当に売れるモノ。

「モノづくりに挑む気持ち」が大切。相手を拒否せず肯定することで、新たなアイディアが生まれ、良いモノづくりができる。

西上さんの手がけた実績をもとにした講演に、来場者は熱心に聴き入り、モノづくりへの意識を新たにしています。

六月三十日と七月一日の二日間、町内企業への理解と地元就職の促進を目的とし、雲南雇用対策協議会が主催した企業見学が行われました。

見学には、来春卒業予定の横田高校三年生約五十人が参加。地元企業や第三セクター、



▼加地本社工場を見学する生徒たち

専門学校など十一箇所を巡りました。

二日目に訪れた(株)加地本社工場(三成)では、会社の設立から現在に至るまでの経緯や会社の理念、商品開発の歴史などの説明を受けました。

同社は、主力素材の超柔軟

進路を考える材料に

横田高校生が町内企業を見学

性ゴム・EXGEL(エクスジェル)を開発し、介護福祉分野を中心に、自動車、オフィス用品など高い評価を受けています。また、「奥出雲から世界へ」の言葉のもと地元で頑張る企業として、現在でも本社を町内に置いています。

生徒たちは、地元から様々な製品が開発・製造され全国や世界に向けて発信されていることに驚いていました。

また企業が利益追求だけでなく、地域貢献への強い思いを抱いていることを知り、感銘を受けていました。

二日間の企業見学は、進路の決定を間近に控えた生徒たちにとって、とても意義深いものになったようです。

この見学を通じて、地元企業への理解が一層深まり、地域内での就業促進、さらには地域の活力となっていくことが期待されます。

奥出雲の魅力を発信・再認識

☆きらり輝く地域づくり事業選考会開催☆

町では、町民の皆さんが自ら企画・実施する、活力あるまちづくり活動の支援を目的とした「住民提案型きらり輝く地域づくり事業」を平成二十二年度に創設しました。

二十二年度は、採択された事業計画をもとに「ブックカフェOKUIZUMU」や「米・1ぐらんぷり」などの事業が開催され、奥出雲の魅力を発信しました。

今年度も十九団体から環境

保全、文化の継承・保全、奥出雲の食の発信、音楽イベントなど、様々な分野の特色ある申請がありました。

六月十四日には、役場仁多庁舎で選考会が行われ、中山間地域研究センターからの三名の専門委員を含む五名の選考委員が、各団体からのプレゼンテーションと質疑により審査を行い、その結果十二事業が採択となりました。



▲選考会の様子

事業名	団体名
キラリ 読書で輝く町づくり	ポケット
米・1甲子園2011	米・1甲子園実行委員会
特別天然記念物オオサンショウ魚の保護と環境整備事業	加食オオサンショウウオ保存会
小林城跡等遺跡資源を活用した歴史ロマン探訪活性化事業	小馬木小林常会
おくこい (若者の出会いの場を提供)	やらこい奥出雲
金言寺の大銀杏を活用した地域活性化事業	金言寺の大イチョウを守る会
LINEUP JILLライブIN奥出雲	奥出雲町若者ネットワーク委員会LINEUP
短歌と行燈による美しいまちづくり事業(与謝野鉄幹、晶子山陰吟行記念)	本町通り商店街
活力ある三沢の郷づくり	とんぼの会
追谷地区かな池整備事業	追谷地区かな池整備団体
追谷綿打公園復元事業(第2期)	追谷綿打公園管理団体
原田自治会 ホタル川再生プロジェクト	ホタル川再生プロジェクト実行委員会